

令和 6 年度 園評価書

園番号 34 園名 入江こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取り組み目標等)
いきいきと いっぱい 遊ぶ子	心を動かし 響き合う	園は、心を通わせ、互いが共有でき、響き合っている語り合いを行っている	職員 A:52% B:43% C:6% 保護者 A:64% B:35% C:1% ・園は、保育者にとっての当たり前を当り前とせず、園児や保護者が抱える状況や要望等に応じ、気持に語り合える関係づくりをしてきた。コミュニケーションをとり合いながら、園が安心できる居場所となってきたが、互いに伝えたいことが感覚的な共有になってしまっていることもあった。	A	A	【園】感覚的ではなく、丁寧にしているからこそ、うまくいかない、進まないことまで捉えられている	・互いに「知らせたい」「知ってほしい」「話したい」、聞いてほしい」と思える関係作りをし、相談しやすい園、職員になる
		園児は、自分も相手も気持ちよく生活できるよう、自分に向き合う経験を積み重ねている	職員 A:51% B:43% C:6% 保護者 A:67% B:29% C:3% D:1% ・園児は、プラスの感情やマイナスの感情を言葉や仕草等で安心して発信し、受け止めてもらう経験を積み重ねてきた。相手を信頼して心を委ねる姿が見られ、困難なことが生じた場合も優しさと温かい関わりを励みに、自分で気持ちの折り合いをつけるようになってきている。	A	A	【園児】お互いに嫌だった気持ちを言葉で伝えることが、子ども同士で、できている	・相手方をリスペクトする関係を築きながら、組織で保護者の子育て力を支え、包括的な支援をしている
		職員は、園児の情熱を感覚的ではなく、丁寧に捉えている	職員 A:54% B:43% C:3% 保護者 A:72% B:27% C:1% ・職員は、大人の都合を優先させたり、分かったつもりになったりして園児の情熱を見取っていないかを確認し、園児の「よく見る」「比べる」「予想する」姿から本当に楽しんでいることが何かを観ながら、関わってきた。しかし、遊びに向かう熱量の差を捉えることが難しく、最後まで見届けられない場面を課題と感じている。	B	A	【職員】大人が仕切って遊ばせるのではなく、子どもが選んで、決めて遊べるようにしている	・そのしらしさを大切にしながら、人の優しさや温かさに触れ、人となつながら経験を積み重ねていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取り組み目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1) 0歳から小学校就学までの一貫した教育及び保育	集団生活の経験年数に考慮し、目配り、気配り、心配りをしながら、個々に応じた寄り添いを行っている	職員 A:71% B:26% 保護者 A:75% B:24% C:0% D:1% ・個々が経験してきたことや背景を理解し、その日、その時の瞬間の思いに寄り添いながら丁寧に関わりをしてきた。保育者の思いとズレが生じ、関わりに迷ったときには職員間で相談し合い、同じ思いで保育に望むようにしている。今後も話し合いを重ね、全職員で一人ひとりの園児を大切に育てていく姿勢を大切にしていく。	A	A	【1(3)】教員は、日々子どもの考えにどう向き合い、対応していくか	・パーソナルスペースを保ち、調和と落ち着いた生活ができるような室内環境、園庭環境を整え、表情、態度、言葉、仕草を捉え、ひとり一人の背景までも理解しながら丁寧に関わる
	(2) 一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	早番・遅番の時間も安心して穏やかに生活できるよう、年齢に応じた環境の準備が行われている	職員 A:66% B:31% C:3% 保護者 A:72% B:26% C:1% D:1% ・保護者との離れ際に寂しさや甘えたい気持ちから泣く子やスキップを求める姿がある。保育者は、お気に入りの遊びに向かえるよう事前準備を行い、「今」の思いを受け止め、ゆったりと関わってきた。保育者に優しく受け止めてもらいながら気持ちを立て直し、子ども同士でも声を掛け合い、寂しい気持ちを受け止め、思いやる姿が見られた。	A	A	学び、経験をつんで引き出しを増やしていく使命がある。保護者の評価は高いが、子どもに関わる者として、日々研修という気持ちで、これからも頑張っていきたい。	・揺れ動く気持ちの発信を保育者だけでなく、友達からも温かく受け止めてもらいながら安心して過ごせるゆとりとした雰囲気や年齢に合わせた準備や再構成を行う
	(3) 環境を通して行う教育及び保育	園児の経験や引き出しを広げる環境やきっかけをつくり、遊びが豊かになっていく配慮がなされている	職員 A:54% B:46% 保護者 A:84% B:15% C:0% D:1% ・園児の「もった」のタイミングを逃さず環境を整えようとしたが、興味が瞬間的に変化し、準備が追いつかないことがあった。遊びを予測しながらじっくりと取り組める環境や場を作り、遊びの連続性や試す姿、子ども自身の体験を積み重ねたい。保育者自身も遊びの引き出しを増やし、柔軟に対応できるスキルを身に付けていくことが課題である。	B	B	こめBとする	・職員自身も教材の本質を知り、柔軟な発想をもちながら、遊ぶを豊かに広げていく。園児の遊びに向かい思いを捉え、より心を豊かにして遊べるように、職員自身の知識や豊かな引き出しが必要
2 安全管理・指導	(1) 事故防止・防災	遊びを通して自ら危険を回避する力を身に付けていける環境づくりや関わりが行われている	職員 A:48% B:46% C:6% 保護者 A:59% B:38% C:1% D:1% ・保育者側の都合で遊びを止めてしまわず、側で見守ったり、さりげない声掛けをしたりしながら、自分で危ないことに気づき、どうしたら安全に遊べるのかを考えられるようにした具体的な言葉選びに迷うことがあった。また避難訓練においては、園でどんな被害が起こるのか、予測される事態を取り入れるための訓練に変え、その都度改善を図ってきた。	A	A	【3】みかんの皮を目の前でむいて香を感じる。りんご果汁を飲みながら、りんごを触る等、0歳児の心地良いミルクの温度等、0歳児にも食育体験できる食育がある。	・子ども自身が危険を感じ、何を、どうしたらよいか考えて生活する力が身につくよう、日々保育者の立ち位置やふるまい、言葉がけのタイミングや言葉選びに行う
3 保健管理・指導	(1) 健康教育の充実	食材に直接触れたり、目の前で育つ様子を見たりし、五感を刺激する食育活動が行われている	職員 A:51% B:46% C:3% 保護者 A:75% B:22% C:2% D:1% ・園児が直接触れる、香を感じる経験を栽培、クッキングを通じて楽しんだが、学年による経験の差があった。栽培活動を計画的に取り入れたが、味、香り、触れる等五感を大切にしたい食育活動につながる見通しまでもてていなかった。給食室に今日のメニューを聞いたり、本物の食材を見せてもらったりする関わりは継続できている。	B	B	【5】何のために行うのか、目的をはっきりする成果が得られているので、Aを付与する	・栽培からクッキング、クッキングに必要な食材の買い物体験、使う食材を見る・触る・味わう・香を感じる等五感を刺激しながら、多様な視点から食育を捉え、食への興味、関心をふくらめていく
4 特別支援教育・保育	(1) 支援体制づくり	支援の必要な園児の行動や意味、支援方法が職員間で共有できている	職員 A:46% B:51% 保護者 A:63% B:30% C:6% D:1% ・支援児の会、支援児担当者会議では、園児一人ひとりの発達や興味関心を捉え、関わり方やアプローチの方法や気づきについて話し合ってきた。園児の姿から考えられる支援方法を探り、日々の保育に生かしてきたが、担当者以外の職員には報告のみになってしまったため、誰もが同じ視点で支援・サポートできる体制にしていきたい。	B	B	【7】人は片付けの時よりも、楽しみにしていることを準備する時のほうが、ワクワクした気持ちになる。子どもが見本となる人だから、職員自身が元あった所に片付ける人であってほしいと思う。昨年度に引き続きの課題であるならば、指標を	・ばんだの会、ばんだ会(支援児)において学んだ特性や理解、様々なアプローチや支援方法を担当保育者だけでなく、誰もが同じ視点で支援、サポートできる体制を強化する
5 組織運営	(1) 組織体制の充実	5W1Hを意識して立案し、見通しをもちながら職員間で連携、協力して取り組んでいる	職員 A:56% B:38% C:3% D:3% ・行事の企画の際に道筋を立て、誰もが見通しをもって取り組めるような企画書の作成をした。文字にして伝える難しさを感じつつ、相手の立場になって立ち止まって考えたことで、職種や勤務形態が異なる職員間でも、行事の目的が共有される成果があった。さらに、会議の伝達を確実にし、情報のムラをなくしていくようにしたい。	B	A	【8】日々の様子が、コドモンでの配信となったが、行事等の様子は今までと作りで作成し、全家庭に配信しているが、良い、Aを付与する	・職員会議や打ち合わせの伝達時、「伝えたいつもり」「聞いたつもり」で、うやむやにせず、ひとり一人が自分事として理解し、お互いを大切にしよう関係を構築する
6 研修	(1) 研修体制の充実	自分たちの言葉で自分たちの学びを生み出し、職員間で共有し、学びを積み上げている	職員 A:47% B:41% C:9% D:3% ・発言のしやすさやわからないことも素直に言い合える雰囲気がある。少人数グループで研修を行い、写真から子どもの遊びや視線の先にある思いを読み取り、どんな関わりや環境が必要かを話し合いながら子ども理解を深めた。研修により全職員に学びを伝達したが、会議に参加していない職員との広く深い共有には課題が残る。	A	A	【9】園児は実施状況の評価でBになっているが、相手側としては、交流によって思いやりや優しさの育ちが見られ、成果は大きい、Aを付与する	・用具や道具の使い方、素材の特性、予想される遊び方を保育者自身が学び、知識を広げ、園児の遊びがより豊かになるための教材研究を組織で行う。
7 教育・保育環境整備	(1) 教育・保育の充実	整理整頓され、園児が自由に遊び、自由に移動でき、取り出しやすさや片付けやすさに繋がる環境が整備されている	職員 A:37% B:54% C:9% 保護者 A:64% B:35% C:1% ・興味関心に応じて用意された用具や素材から、自分で遊び、自分たちで遊び場を構成する姿が増えている。物への扱いに丁寧さが欠ける面は、昨年度からの課題であり改善されていない。自分から片付けようとする姿は育ってきているが、どこに何を片付けるのか誰もがわかる表示や準備した職員が責任をもって最後まで整理する習慣が必要。	B	B	【10】園児は実施状況の評価でBになっているが、相手側としては、交流によって思いやりや優しさの育ちが見られ、成果は大きい、Aを付与する	・意図をもって環境を構成し、子どもがどのように遊び、次にどうしようとするかまで見取り、最後まで責任を持ち、片付ける。物が落ちていないか、片付け忘れはないかの確認、目配り、気配り、心配りを行う
8 家庭との連携・協力	(1) 家庭教育への支援機能の充実	広く、深く遊びや生活に着目し、保護者にわかりやすく、偏りがないボードやお便りを発信している	職員 A:60% B:37% C:3% 保護者 A:65% B:27% C:7% D:1% ・コドモンからドキュメンテーションの配信が軌道に乗り、行事のボードの配信とともに日々行っている。今後も保育者の思い込みや事実と違うメッセージにならないよう、園児ののりのままの姿を発信するようにする。また、同じ園児の写真配信に偏らないように丁寧にチェックをしていく。	B	A	【8】日々の様子が、コドモンでの配信となったが、行事等の様子は今までと作りで作成し、全家庭に配信しているが、良い、Aを付与する	・他学年の様子を知る機会を増やすため、行事の際はボードを作成し、全園児に配信を行い、園への関心を広げる
9 近隣の学校との連携	(1) 近隣の園との連携の推進	連携園、小中学校と園児や職員が交流し、接続に向けての連携を計画的に実施している	職員 A:60% B:20% C:20% 保護者 A:53% B:41% C:5% ・入江小、江尻小と連携し、学校探検や、昨年頂いたひまわりの種からの交流、粘土遊びや交流等の関わりがもてた。また今年度からSWも保護者と繋がり、保護者の意向を受け、就学先へのアプローチや保護者自身の面談を重ね、育児の不安や保護者の悩みに寄り添い、切れ目のない包括的に支援体制につながっている。	B	A	【9】園児は実施状況の評価でBになっているが、相手側としては、交流によって思いやりや優しさの育ちが見られ、成果は大きい、Aを付与する	・自園から積極的に発信し出掛け、学校訪問の長期的な接続を目指す。交流したことでの育ちのメリットを明確にする
10 地域との連携	(1) 信頼される園づくり	地域と協力協働し、地域のもの、こと、人に触れ、入江を知り、入江の魅力を感じる体験が行われている	職員 A:46% B:40% C:14% 保護者 A:54% B:37% C:8% D:1% ・地域にいるお年寄りとの遊びセッション、未就園児やボランティアの方と子育てトークの会等、新たな触れ合いや関わりを行った。近隣の公園への散歩や白鷺神社行事の参加等を通して保育者自身も入江地区に愛着を抱いている。地域との活動が充実してきているが、保護者評価が低いことは、発信の仕方が課題であったと感じている。	B	B	【10】入江一丁目会のもくれんの会との交流にもつながってくれる	・遊びリレーションでの肩たたきのふれあい遊び、(年中)・子育てトークの会参加(年長)・未就園児に歌の披露・交流館作品展示を計画的に位置づけ、新たに「もくれんの会(老人会)」との交流を実施する